

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (75)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

Basic 世界語 New Panoptic English (NPE) / Every Man's English (EME)をメタ言語(metalanguage)に上から下を眺望(bird's-eye view)する本連載であるが、もう趣旨は理解されよう。英語の学びの方法での「要領」(trick)を早く身につけてしまいたい。EP 本ではほぼ reference のみとなり Say “hello” to John for me. (ジョンによろしくね)とも言わない(言えない)理屈とまたもなるが、この EP 本の頭脳では Basic に関しては手早くはその体系が身につかないことはたびたび触れている〔末尾「演習」での XI) 参照〕。また、本会で Ogden の *Basic by Examples* からの sentence 単位の短文例が 30 年間に渡り散発的に提示されているが、実際には3カ月(3週間?)程度の短期間で終えてしまうのが ‘the Quickest Way’ への要領だろう。さらに EP 本が半世紀間、同種の取り扱い方になっているが ‘the Slowest Way’ とはならないようにしたい。課題だろう。

関連し L. W. Lockhart が *Basic Picture Talks* (1942)の前書きで次のように Basic 文で言う箇所に注目しよう。

When learning a language, it is more rewarding to put in a great amount of work over a short stretch of time than to do only a little work at a time and take longer.

まさにこれは上記のとおりで、外国語修得では短期間に一気に多くをまずは取り込んでしまうのがのらりくらりと時間をかける学びより報われる度合いが大きいと言っている。心に留めおくとよい。ポイントである。

今回は3例を扱う。ここでは意味に絡む心情(emotion)も意識し便宜的に末尾で emoticon を付しておく。

(1) The Radical Left Dems and LameStream Media are just trying to make it hard for Republicans and me to win in 2020. The new impeachment Hoax is already turning against them! 😏 (November 7, 2019)
▲かなりの心情を伝える。「極左翼の民主党員とやぼったいメディアは、2020年の選挙で共和党と私の勝利を妨げている。新たな弾劾の茶番は、逆にすでに彼らに不利となっているのだ!」という内容。

太線語 already は本連載(53)の(1)で触れたので確認となる。印欧祖語の語根 PIE etymon の形態言素形(morphoglosseme: MG)は/REIDH/と復元されていて原義は「馬で運ぶこと」で、馬の通る「道」、馬に「乗る」こと、馬の「配列」のこと、馬に乗り旅に出る「用意」のできた状態にあることの意味となった。Basic 世界語彙 **ready, road** が同系であるし、非 Basic 語彙 already (< all + ready)以外に ride (乗る)、array (配列する)などが同系〔拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(16)参照〕。なお、already は[l]音と[r]音が連続するがこの区別が明快に聞こえるか? 英語の[l]音と[r]の連続音は音響的(acoustically)に特別に要注目となる。

太線とした Basic 世界語彙 **against** が **again** と同系であることと原義に関しては本連載(15)の(1)、(42)の(2)などですで見ただけで確認である。「互いに何度も向き合うこと」が原義である〔なお、重要な空間詞 against は EP 本で脚注にも巻末 Index (索引) にも示されないが見落としミスであろうことはすでに言った〕。

(2) 100% Correct! 😏 (November 24, 2019)

cf. Let's get back to discussing critical national-security issues confronting America. The threats are grave and growing. The presidency and control of the House and Senate will be decided in less than one year. It's time to speak up again! @AmbJohnBolton (November 23, 2019)

▲大統領1期目在任中の Trump 氏は補佐官で国家安全保障問題担当の John Bolton 氏を 2019 年 9 月 10 日付けで対外政策の意見不一致を理由に解任していたのであるが、その後 Bolton 氏は2ヵ月余り沈黙を保っていた。しかし 11 月の 22 日に突然、みずからの Twitter へ書き込みを再開した〔本連載(71)の(2)参照〕。また翌日の 23 日にも書き込みをし、それが上の cf. での Bolton 氏のつぶやきであった。

下線部のように Bolton 氏はかなり米国の安全対策には危機感を抱いている様子が見えうかがえる。また、この時点で約1年後となる 2020 年の大統領選と議会にも懸念している点があることもわかる。Bolton 氏の言い分に対し Trump 氏はその翌日 24 日にまったくの一口で “100% Correct!” と書いたわけで、意味深である。

Bolton 氏は大統領選5カ月前の 2020 年 6 月、新型コロナウイルス蔓延にともなう社会経済活動の停滞、黒人など人種差別抗議デモでの Trump 氏の対応などをめぐり国内が揺れ動くなか、補佐官でありながら Trump 氏の再選にとどめを刺す? べく政権の内幕を描く暴露本?“*The Room Where It Happened: A White House Memoir*”『それが起きた部屋: ホワイトハウス回顧録』を出版しようとした。しかしこれには政権の機密情報が含まれ、公にすることは法的に秘密事項厳守に違反するとしてホワイトハウスは出版の差し止めを求め首都 Washington, D.C.の連邦地裁(U.S. District Court)に提訴する事態にもなった。

本連載(56)で扱ったが、ちょうどこの1年前の 2019 年 6 月に日本で G-20 大阪サミットが開催され Trump 氏も来日したが、実はそのとき彼は中国の習近平国家主席に 2020 年の大統領選の支援を要請したという書き込みなどもこの暴露本(tell-all book / kiss-and-tell book)にはあるとされた。

ただ、この暴露本の内容は政府の検証完了を待たず事前にメディアなどに漏れてしまっていたので、裁判所も差し止めはできなく公訴を棄却し結果的にこれは販売となった。しかし Trump 氏支持層はこの本に特に反応を示さず、またもや大統領に対する嫌がらせ(presidential harassment)程度の受けとめ方でもあった。さらに実は同時期に、今度は親族で Trump 氏の姪が暴露本を出版する噂も出た。

暴露本といえば本連載(5)の①、(48)の(2)で触れたが、Trump 政権 1 期目の 2 年後となる 2018 年 11 月の中間選挙前の 9 月に Trump 氏を中傷する恐怖の暴露本と当時騒がれた *Fear : Trump in the White House* (Bob Woodward 著) が世に出た。

太線語 correct の語根部 rect は PIE etymon の/REG/からで「支配の及ぶこと」が原義である。広く「しかるべくあること」の意味とも結びつく。言素(音素)/G/は無声音[k]ともなったが、同系語に Basic 世界語彙 **regular, direction, right, rule, rail, dress**、プラス α Basic 世界語彙 **rigidity, address, royal**、また非 Basic 語彙には **regal, region, reign, rectify** (改正する) などがある [同上拙著、第二部、例(32)参照]。

[以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01-05)より — 2 言語対照]

(3) Best wishes to Prime Minister @Netanyahu and all of the people of Israel on the 70th Anniversary of your Great Independence. We have no better friends anywhere. Looking forward to moving our Embassy to Jerusalem next month! 😊 (April 18, 2018)

cf. Mis mejores deseos al Primer Ministro @Netanyahu y a todo el pueblo de Israel en el 70º Aniversario de su Gran Independencia. No hay mejor amigo que ustedes. ¡ Esperando llevar nuestra Embajada a Jerusalén el próximo mes! (18 de abril, 2018)

▲この tweet の内容は本連載(1)の⑦、(6)、(48)の(2)との絡みで見るとよい。これは 2018 年に Trump 氏がイスラエル独立 70 周年で祝いの言葉としてネタニヤフ (Netanyahu) 首相に伝えたものである。そして翌月にはイスラエルのアメリカ大使館がエルサレム(Jerusalem)に移されると言った。事実、この約 1 カ月後の 5 月に米国大使館 (U. S. Embassy) はエルサレムへの移転となった。

太線語 Israel は本連載(1)の⑦で触れたが、ヘブライ語で「神と争うこと、神が支配すること」の意味だということはよく知られている。元々が神の選民ユダヤ民族は族長が Abraham (アブラハム) で、子の Isaac (イサク)、孫の Jacob (ヤコブ) とつづいたが旧約聖書『創世記』(Genesis) 第 32 章に記されているように、ある日 Jacob が神の遣い(天使)と暗闇のなかで格闘することとなった。これを神が天でご覧になっていた。一晩中争い Jacob が天使に勝ったのである。いわゆる神事としての「相撲」[今日、天皇が観戦する「展覧相撲」(?)] を取り勝った。そのとき天使から名前を Jacob (「足のかかと」の意味) から Israel (「神の戦士」の意味) に変えるよう言われ、以後 Jacob が Israel となり 12 部族の始祖となった。

ユダヤ人はこの 12 部族のうち 2 部族だけが残り他は世界各地へ離散し行先は今日も不明。今日、日本人と日本語のルーツも実際は不明。日本神道での神事がユダヤのものと酷似していて実は日本人とユダヤ人は同祖先とする知る人ぞ知る「日ユ同祖論」もある。三重県伊勢神宮の参道の灯籠にはユダヤのダビデ王(King David)の王家の紋章☆が彫ってある(☆は今日のイスラエルの国旗にも見る)が、なぜ伊勢神宮にこの紋章を見るのか? 伊勢 'Ise' は 'Israel' ? [本会 Year Book No.76, 77 (2024, 2025) での拙論を参照されたい]。

Jacob が格闘・相撲で勝ち Israel という名前に変えるよう天使が言う部分を、手元にあるハードカバーで貴重な 1949 年版の Basic 聖書(BBE)の『創世記』同章 27~28 節からの引用で次に示しておく。

Then he said, what is your name? And he said, Jacob. And he said, your name will no longer be Jacob, but Israel: for in your fight with God* and with men you have overcome. — Genesis 32: 27-28 (From BBE: *The Bible in Basic English*) [*文中の God はプラス α Basic 世界語彙でイタリック体としておく]。

上記(3)の tweet 文中での太線語 Embassy も本連載(1)の⑦で見たが、Basic (NPE / EME)では国際名称語(international names)15 語中の 1 つでプラス α Basic 世界語彙である。embassy とイタリック体書きとしておくが、ambassador (大使)、ambulance (救急車)、ambiguous (曖昧な)などは同系語。すべてラテン系の語である。語根部の amb は「あちこち歩き回ること」が root sense (原義)と考えればよい。あちこち歩き回る「召使」が ambassador ということになるし、「救急車」の ambulance もあちこち移動する。また「曖昧である」の意味の ambiguous が同系語であることは理解・納得できることになる。

cf. のスペイン語文中の語 mis, deseo, Primer Ministro, todo, pueblo, aniversario, gran, independencia, no, esperando, embajada, próximo, mes は、それぞれ英語文中の **my, desire, Prime Minister, total, people, anniversary, great, independence, no, expecting, embassy, proximal, month** に対応し互いに同系語 [太字体は Basic 世界語彙、イタリック体はプラス α Basic 世界語彙、標準体は非 Basic 語彙]。

ところで、上の(2) cf. で John Bolton 氏が懸念するように米国の対外政策に問題はないか? 人間による権力(power)の魔性ほど怖いものはない。特に中東との関わりで、本連載(6)、(48)の(2)、(68)で扱った内容とも絡むが新約聖書の最終章『黙示録』(Revelation)の記述にも改めて注目したくなる。いつ trumpet (トランペット)の音が鳴り、The Last Trump (最後の Trump 審判?) が下るというのか?

2019 年末から 2020 年にかけて新型コロナウイルス感染症(coronavirus disease / COVID -19)が世界的

(pandemic)なものになったとき 78 億人の全人類に広がる可能性も説かれたが、これは人類が病原菌によりまさに滅亡の危機にさらされたときでもあったのか？

本連載(28)でも触れたが、米国大統領選の年の 2020 年にはこの新型コロナウイルス禍で米国の経済活動は脅かされ、世界的にも再注目されたのが *Básic English* (BE)ならぬ Basic Income (ベーシックインカム: BI) の制度で、国民全員を対象とした最低限生活保障で Universal Basic Income (UBI)とも言われる。

ところで上述の God に関しここで特別に触れておくが、God の概念の定義を C. K. Ogden 監修 GBED: *The General Basic English Dictionary* は 'Higher being respected as having power over (certain) things on earth' としている。God が Higher being respected as ... (〜として敬われる高次の存在) と定義されているが、実はこれが G. Blocker の *The Meaning of Meaninglessness* (1974)『無意味の意味』で ontological (存在論的) な観点から一貫し 'being-as' 「としての存在物」と説かれている点と見事に一致する。神(God)なる存在も 'being-as' として示されることになる [cf. Being 「存在物」]。

神は本来、その下で隣人(neighbor)を愛し(love)、愛される(be loved)という見方からも「神」・「隣人」は共に存在概念(existential concept)ではなく「関係概念(relational concept)」と考えるべきものとなる。なお、プラス α Basic 世界語彙 neighbor は {neigh (= near) + bor (= person, farmer)} と morphemic decomposition (形態素分解) される [同上拙著、第二部、例(35, 96)参照]。

God の定義で Basic 世界語彙 being, respect, power, earth などから各々さらに他の synonyms (同義語・句) を GBED に次々と求めていくと、Basic 世界語彙本体 850 語による語・句の「定義」の定義(definition of 'definition')が浮き彫りにされてくる。この操作を続行していくと「Basic 語の Basic 語の意味」の織り成すネットワーク(network)を垣間見ることとなる。

GBED に示される上記 God の Basic 世界語彙本体による定義 'Higher being respected as having power over (certain) things on earth' からは、例としてさらに 'being' が 'existence'; 'respect' が 'high opinion of, feeling of looking up to'; 'power' が 'quality of being strong enough, able, to do something, sp., physical force'; 'earth' が 'man's PLANET(> star moving round the sun)' のようになってくることが分かる。冒頭で言ったが、「毎日少しずつ」ではなく「一気に多く」を取り込んでしまう要領でいきたい。

この「定義の定義」の織り成す体系という見方から発展的に Basic-Basic Wordbook (BBW)『べべ辞典』[仮称]の編纂という考えも視野に入ってくる。ここではまったくの 1 例を示したにすぎないが、このべべ辞典編纂は筆者が 1980 年代以来抱いてきた構想でありその当時に本会でも触れたことがある。定義の定義は関数 $f(x)$ の導関数 $dy/dx = \lim(\Delta x \rightarrow 0) \Delta y / \Delta x$ を求めること、すなわち $f(x)$ の微分係数(derivative)を求める考え方とも結びつく旨はすでに本連載でたびたび触れた [differential equations (微分方程式) に関しての言及は Ogden-Richards の *The Meaning of Meaning* (p. 55, p.75)でもなされる]。

微分・積分と意味の問題に関しては算数・初等数学のレベルでもその一端が容易に理解できる具体例を本連載(32)で図絵とともに示しておいたので改めて参照・確認されたい。微積分の概念はこれで容易に分かる。

(演習) 本連載 (71) ~ (75)より

I) 次の a) ~ m)の語は下の①~⑬の Basic 世界語彙 (イタリック体はプラス α Basic 世界語彙) のどれと同系か? EP 本の編纂が 17 世紀の J. A. Comenius 著 *Orbis Pictus*『世界図絵』で提示された図絵と解説文に基づいているので、本連載ではそれをもじって Basic 語彙を「**Basic 世界語彙**」と称してもいる [同上拙著では Basic 世界語彙本体 850 語中の 150 語の原義(root sense)から事実上約 10,000 語の意味が容易に感知できる理屈になることを示したが、本連載(3), (11)でもこの 150 語の Basic Básic Words: BBW を基に英語の同系語を手早く眺望できる Panopticon を示唆・提示した]。この種の同系語見定めのためにはカードを用いての、いわゆる「カルタ取り」が有効であると本連載(25)で示唆した。

a) perhaps b) congratulate c) exaggerate d) rhyme e) liberty f) career g) deficit
h) treat i) witch j) enthusiastic k) delete l) grade m) correct

* * *

① **agreemet** ② **attraction** ③ *charge* ④ **degree** ⑤ **digestion** ⑥ **effect** ⑦ **keep**
⑧ **level** ⑨ **right** ⑩ **slip** ⑪ *stream* ⑫ **theory** ⑬ **view**

II) 本連載(72)で見た lame duck (不具のアヒル)に関連し、「身体障害者」を英語で a (p) handicapped person のように handicapped を用いると侮辱的ともされ避けられもする。impaired ならよかろう。これをすべて Basic で a (p) (d) person と言えば中立にもなろうが、3つの括弧に入る語を Basic 世界語彙に求めれば? [p で始まる 2つの括弧内には同一語を入れる]

III) 本連載で intonation の聴取の平易さに触れているが、「intonation」は Basic 世界語彙 1 語では何? また、「作詞作曲〜」は英語で“() and () by ...” と言うが括弧に入る Basic 世界語彙は?

IV) 本連載(72)での寒暖計(thermometer)に関連しこの計器に見る「水銀(mercury)」を q で始まる Basic 世界語彙の合成語では? [q で始まる Basic 世界語彙は quality, question, quick, quiet, quite の 5 語]。

- V) 「このテーブルの上にジョンがわが国の政治体制に抗議する目的で昨日私に送った鉛筆書きの手紙がある」を Here を振り出しに Basic 世界語で言え？
- VI) 上の(3)の text 文例で 非 Basic 語彙が 4 語 がある。それを示せば？
- VII) 世界語彙で物質の **dress** (ドレス) をアリストテレス(Aristotle)の四原因素(four causes)で見れば？
- VIII) 文 Mary is cutting a cake. で case (格) の locative (位置格) と instrumental (具格) を示せば？
- IX) 次は前回(74)の tweet text 文例(3)からのものであるが、括弧内の語を意味をなすよう整序すれば？
- Rasmussen and others have my approval ratings at around 50%, which is higher than Obama, and yet the political pundits love saying my approval ratings are “somewhat low”. They [**are, it, know, lying, say, they, they, when**]. Turn off the show — FAKE NEWS !
- X) 前回、英語の will take などは 未来時制 ではなく 現在時制 で aspect が 未完了 である旨を示したが、will や may のいわゆる「助動詞」のことを Basic 世界語彙で Ogden が示した h で始まる次の括弧中の 1 語は？
- In English ‘will’ and ‘may’ are (h) words which come after the names of actors.
- XI) 冒頭で EP 本では Say “hello” to John for me. と挨拶もできない理屈になる旨を言ったが、Richards がこのあたりを意識し提示したと推測もされる文例を EP 本 II に求め、その文例と頁を 1 つだけ示せば？

〔正解〕 I) 英語の **phonics** (フォニックス) とも関わる同系語の見定めは上記 Basic 世界語彙本体 850 語中の 150 語を軸に考えれば簡単で、慣れとともにスラスラ全正解できるようになるはずである。

a) ⑦	b) ①	c) ⑤	d) ⑪	e) ⑧	f) ③	g) ⑥
h) ②	i) ⑬	j) ⑫	k) ⑩	l) ④	m) ⑨	

- II) physically, physically, damaged cf. a crippled person 「不具者」は侮辱的な響きとなる。
- III) music [intonation は Basic 世界語彙では ‘music’ となる。やはり聴取の容易さは納得できよう]。「作詞作曲～」は英語で必ず Words and Music by... と言う。「曲」はやはり聴取できる music である。
- IV) quicksilver [注：mercury はローマ神話で足の速い Mercury 神に由来する]。merchant (商人) は同系語であるが、商人 [businessman (< busy + ness + man)] は忙しく動作が速いのか？ quicksilver など金属は J. A. Comenius の *Orbis Pictus* 『世界図絵』中の No.10 の図絵でも示される。
- V) (正解例) Here on this table is a John’s penciled letter sent to me yesterday in protest against the government system of our country. <備考> これは 5W’s & 1H をすべて含む文で Where ? : table ; Who ? : John ; What ? : letter ; How ? : done with a pencil / sent to me ; When ? : yesterday ; Why ? : in protest against the system となる [本連載(69),(72)で提示した **We Do Things With X** での X (道具：instrument) はここでは pencil]。
- VI) Basic 語彙の範疇ではない 非 Basic 語彙の 4 語 をアンダーラインで示しておく。他はすべて Basic の範疇語 [イタリック体としておく *people* と *Embassy* はプラス α Basic 世界語彙、なおここでの Prime Minister など職名は適宜 Basic での範疇語 (句) となる]。
- Best wishes to Prime Minister @Netanyahu and all of the *people* of Israel on the 70th Anniversary of your Great Independence. We have no better friends anywhere. Looking forward to moving our *Embassy* to Jerusalem next month ! <備考> 最終的には本連載での tweet 文例すべてを Basic 縮約文へ変換することを Basic 実践の 1 つの目的 としたいもの。
- VII) dress の ‘causeme’ (原因素) は本連載(72)参照 [さらには EP 本 II, pp.44-50, pp.220-221 参照]。
- VIII) a cake が locative (位置格)、a knife, etc. が instrumental (具格) [本連載(73)での文例参照]。
- IX) know they are lying when they say it [これが一般的で、text 文整序法で pattern 認知力を培いたい]。
- X) helping [C. K. Ogden, *The ABC of Basic English* (1932) などでの will, may, etc. に関する論考参照]。
- XI) [例] He says “Good morning” to his mother and father and takes his place at the table.

— EP II, p.152 [このあたりは EP 本 III, pp.149-153 とも関わることで、本連載(71)参照]。

ここでの演習例は語彙・文レベルの基礎的なもの。本連載(72)で言ったが「**実用 Basic 英語検定試験 (Test of a Working Knowledge of Basic English : TWK-BE)**」[仮称] なるものを想定し、将棋にならった等級での技能級位(10 級～1 級)なら 5 級程度のものとなろうか？ [EP 本 I・II など初めて手掛ける grade を級位での 10 級、また 級位 1 級の上を理論面を含めた Ogden や Richards らに近づく 段位 として]。

本連載では 5 回ごとに「演習」を通し Basic 世界語彙 (850+ Every Man’s Words of English) を軸に同系語 (paronym : word of the same root) などを確認しているが、上の演習 I) m) での correct も Basic 世界語彙の **right** と同系であることを見た。Richards, I. A. and Gibson, C. (1974) *Techniques in Language Control* は巻末頁(pp.139-140)で right から見た 100 以上の同系語の例を列挙している点には特別に要注目 [今回の演習 VII) での dress も同系として提示される]。Qualities (性質語) として EP 本が他に先がけ真っ先に提示するのが 絶対形容詞 (absolute adjectives) としての定基準語 right / left である [EP I, p.13]。ただし、絶対形容詞 right / left は実は EP 本にさらに先がけて C. K. Ogden が注目し *Basic Step by Step* (1935), p.1 で提示した。